

5. - 1 4) 検定結果 烏骨鶏交雑

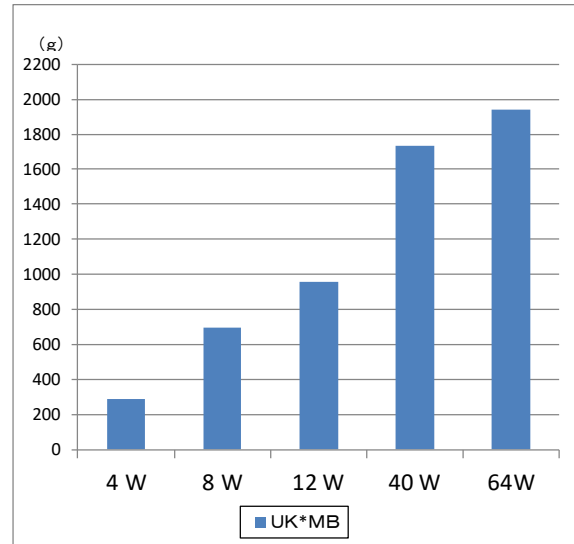
UK×MB (烏骨鶏×WL) コマーシャル卵用及び卵肉兼用タイプ (CM♀) 28 年度

(1) 体重 (表 3、図 1 参照)

体重は、4 週齢・8 週齢を 10%抽出(10 羽)、12 週齢を全羽数、40 週齢・64 週齢を 60%抽出(60 羽)として測定した。

成鶏期の 40 週齢では 1.73 kg となり、検定終了時の 64 週齢では 1.94 kg となった。

	4週齢	8週齢	12週齢	40週齢	64週齢
	28日齢	56日齢	84日齢	280日齢	448日齢
平均体重	289	697	961	1,732	1,942
最大	326	758	1,091	2,074	2,567
最小	260	638	815	1,368	1,503
標準偏差	17.7	41.1	57.7	201.5	263.1
変動係数	6.11	5.90	6.00	11.63	13.55
数	10	10	97	60	60



※ 上記の表 3 における 12 週齢の全数測定において、発育不良等により極端に低い体重のものは、異常値として集計から除外した。

(参考) 烏骨鶏純粋種の平均体重

40 週齢時 : 1,383 g (27 年鶏 : 岡崎牧場系)

(表 3・図 1) 平均体重の推移

(2) 羽色・外貌特徴

ア 0 週齢時（羽色のみ(20%抽出)）（図 2 参照）

羽色は、その組合せの中で多く占めている羽色タイプを順に、羽数をカウントすることとした。

「UK×MB」は、羽色が 2 タイプあり、羽色タイプ I（白色・黒色刺毛）が 85%（20 羽中 17 羽）、羽色タイプ II（白色・頭部褐色）が 15%（20 羽中 3 羽）を占めた。



(図 2) <UK×MB>の羽色

イ 12 週齢時（羽色・外貌特徴）（図 3 - 1 ~ 4 参照）

「UK×MB」は、羽色タイプ I（灰白色(黒色刺毛含む)）が 57.1%（98 羽中 56 羽）、羽色タイプ II（白色(黒色刺毛含む)）が 28.6%（98 羽中 28 羽）、羽色タイプ III（淡褐色斑）が 10.2%（98 羽中 10 羽）、羽色タイプ IV（褐色斑）が 4.1%（98 羽中 4 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が卵用種型（地鶏型）、冠はバラ冠・胡桃冠（ごく一部単冠）が見られ、毛冠があり、耳朶色は濃藍色、脚色は鉛色・薄い鉛色、脚毛があり（一部脚毛なし）、趾は多趾（ごく一部多趾でない）であった。



(図3-1) <UK×MB> 羽色タイプⅠの羽色・外貌の特徴



(図3-2) <UK×MB> 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴



(図3-3) <UK×MB> 羽色タイプⅢの羽色・外貌の特徴

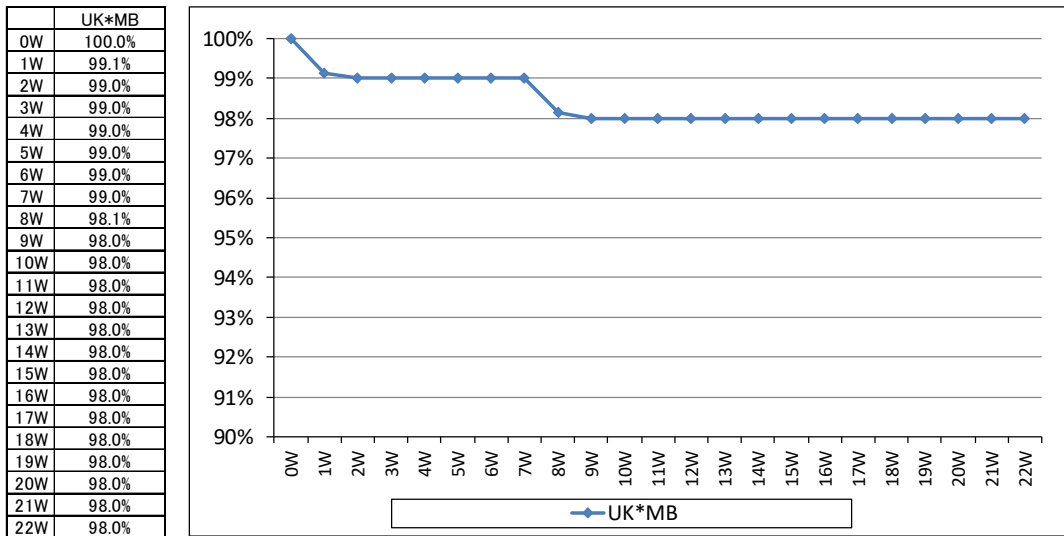


(図3-4) <UK×MB> 羽色タイプⅣの羽色・外貌の特徴

(3) 育成率・生存率

ア 育成率 (表4・図4参照)

1週齢頃に弱雛により斃死、8週齢頃に発育不良により淘汰されたが、その後は特に目立った症状は認められず、育成率は98.0%であった。

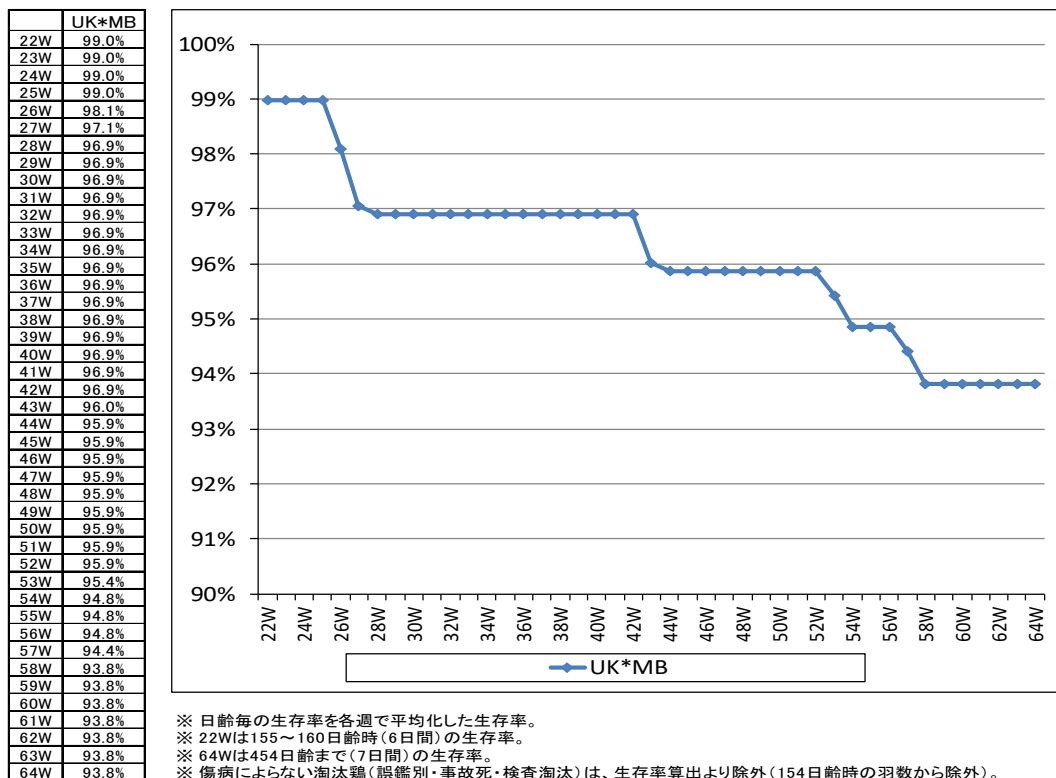


※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率。
 ※ 22Wは154日齢時(1日間)の育成率。
 ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰等)は、育成率算出より除外(え付羽数から除外)。

(表4・図4) 育成率の推移

イ 生存率 (表5・図5参照)

22週齢頃にその他の疾患病による斃死、26週齢頃に運動器病による淘汰及び消化器病による斃死、その後43週齢以降に消化器病及びその他疾患により斃死し、検定終了時の64週齢(446日齢)の生存率は93.8%であった。



※ 日齢毎の生存率を各週で平均化した生存率。
 ※ 22Wは155~160日齢時(6日間)の生存率。
 ※ 64Wは454日齢まで(7日間)の生存率。
 ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰)は、生存率算出より除外(154日齢時の羽数から除外)。

(表5・図5) 生存率の推移

(4) へい死・淘汰要因 (表 6 参照)

消化器病(脂肪肝出血症候群(8羽中2羽))、局所異常(腹腔内出血(8羽中2羽))が発生し、その他、運動器病(脚弱)、消化器病(肝内出血)、発育不良、弱雛が発生したものの、特に目立った症状はなく、検定終了時の454日齢までのへい死・淘汰率は8.1%となった。

(表 6) へい死・淘汰率 (日齢/羽数)

区 分	UK×MB	
脚弱	1.0%	(183/1羽)
脂肪肝出血症候群	2.0%	(375~/2羽)
肝内出血	1.0%	(190/1羽)
腹腔内出血	2.0%	(155~/2羽)
発育不良	1.0%	(57/1羽)
弱雛	1.0%	(8/1羽)
計	8.1%	(8羽)

※ 64W(454日齢:H28/7/2)までのデータとした。

※ へい死・淘汰率は、え付羽数から検査淘汰などを除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率とした。

(5) 産卵性能

ア 各性能 (表 7 参照)

50%産卵日齢は、152日齢。

ピーク産卵率は、92.4%。

168~454日齢の期間産卵率は、75.0%。

(表 7) 各性能

区 分	50% 産卵日齢	ピーク 産卵率	期間 産卵率
UK×MB	152日齢	92.4%	75.0%
	[151日齢：41.4%] [152日齢： <u>53.5%</u>] [153日齢：49.5%]	[186日齢：95.9%] [187日齢：88.7%] [188日齢： <u>92.8%</u>] [平均 <u>92.4%</u>]	期間産卵個数：20,483個 期間延べ羽数：27,300羽 期間産卵率：75.0%

※ 「50%産卵日齢」は、産卵率が50%に達した最初の日齢

※ 「ピーク産卵率」は、産卵ピーク時3日間の平均産卵率

※ 「期間産卵率」は、168~454日齢の期間産卵個数/期間延べ羽数

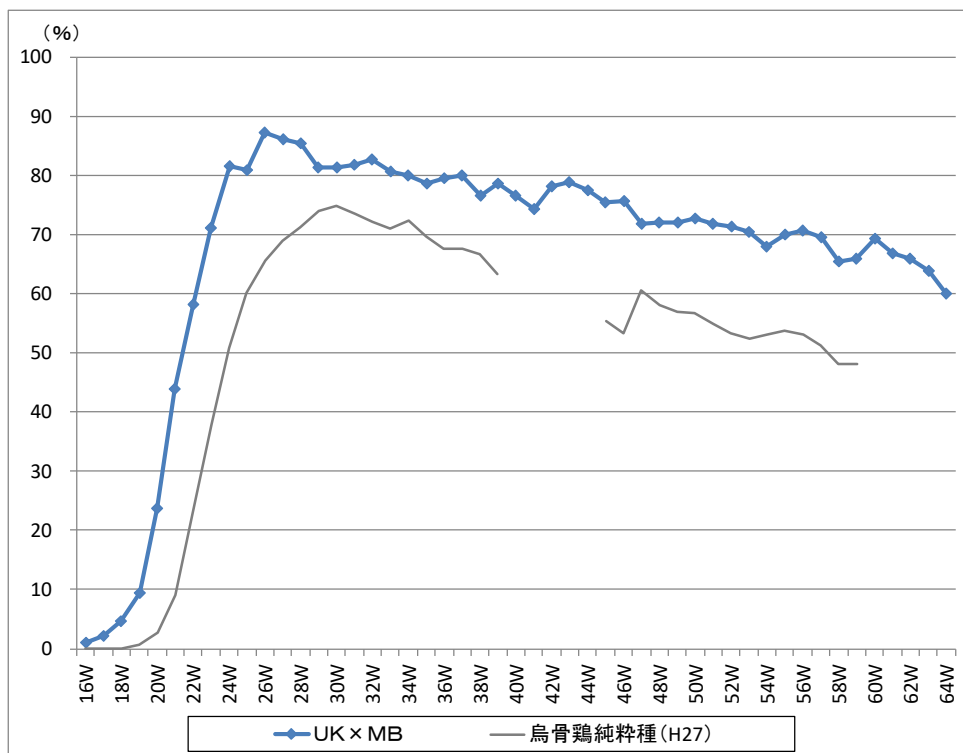
(表 8) (参考) 純粋種の各性能 (27年鶏：岡崎牧場系)

区 分	50% 産卵日齢	ピーク 産卵率	期間 産卵率
烏骨鶏 純粋種	171日齢	76.0%	59.0%

イ 週齢毎産卵率 (表 9・図 6 参照)

週齢毎の平均産卵率は、16週齢から産卵を開始し、20週齢から一気に上昇し、25週齢で若干の低下は見られたものの、26週齢で産卵ピークを迎えた。その後、53週齢にかけて70%以上を維持し、64週齢では約60%となった。

		UK×MB	純
7/25～	16W	1.0%	0.0%
8/1～	17W	2.2%	0.0%
8/8～	18W	4.8%	0.0%
8/15～	19W	9.5%	0.6%
8/22～	20W	23.8%	2.7%
8/29～	21W	44.0%	9.2%
9/5～	22W	58.2%	22.9%
9/12～	23W	71.1%	37.9%
9/19～	24W	81.5%	50.8%
9/26～	25W	80.9%	60.1%
10/3～	26W	87.2%	65.6%
10/10～	27W	86.2%	69.0%
10/17～	28W	85.4%	71.1%
10/24～	29W	81.4%	74.0%
10/31～	30W	81.4%	74.8%
11/7～	31W	81.7%	73.6%
11/14～	32W	82.7%	72.2%
11/21～	33W	80.7%	71.1%
11/28～	34W	79.9%	72.4%
12/5～	35W	78.7%	69.7%
12/12～	36W	79.6%	67.7%
12/19～	37W	80.1%	67.7%
12/26～	38W	76.6%	66.6%
1/2～	39W	78.7%	63.2%
1/9～	40W	76.5%	
1/16～	41W	74.4%	
1/23～	42W	78.3%	
1/30～	43W	78.8%	
2/6～	44W	77.6%	
2/13～	45W	75.5%	55.3%
2/20～	46W	75.6%	53.3%
2/27～	47W	71.7%	60.6%
3/6～	48W	72.0%	58.0%
3/13～	49W	72.0%	56.9%
3/20～	50W	72.8%	56.8%
3/27～	51W	71.7%	54.9%
4/3～	52W	71.4%	53.2%
4/10～	53W	70.4%	52.5%
4/17～	54W	67.9%	53.2%
4/24～	55W	69.9%	53.7%
5/1～	56W	70.7%	53.0%
5/8～	57W	69.4%	51.2%
5/15～	58W	65.4%	48.1%
5/22～	59W	66.0%	48.2%
5/29～	60W	69.4%	
6/5～	61W	66.9%	
6/12～	62W	66.0%	
6/19～	63W	63.8%	
6/26～	64W	59.9%	



※ 日齢毎の産卵率を各週齢で平均化した産卵率

(表9、図6) 週齢毎産卵率の推移

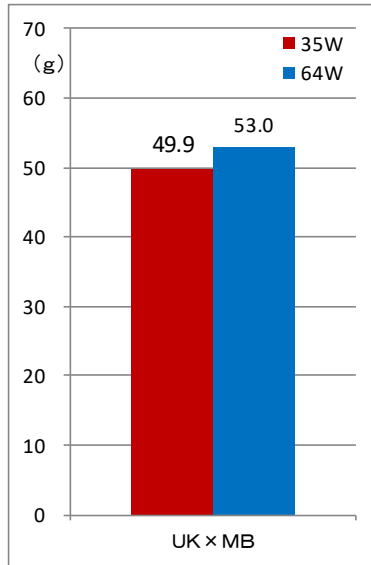
(6) 卵質性能

卵質性能は、35 週齢・64 週齢時の卵質検査において 60%抽出(60 個)として測定した。

ア 卵重 (表 10~12・図 7~9 参照)

卵重は、35 週齢では 49.9 g、検定終了時の 64 週齢では、53.0 g となった。

区 分 (g)	UK*MB	
	35週齢	64週齢
平 均	49.9	53.0
最 大	56.6	60.2
最 小	43.0	45.6
標準偏差	3.3	3.4
数 (個)	60	52

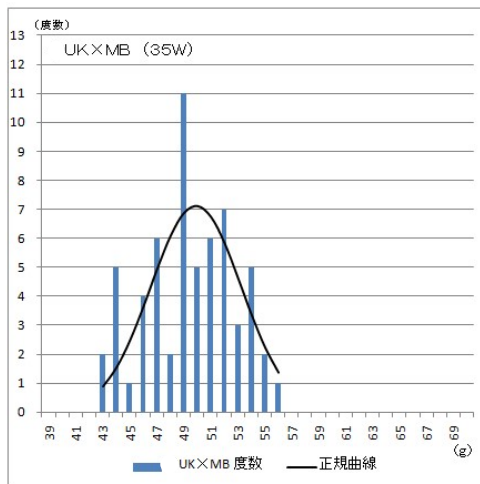


(参考) 烏骨鶏純粋種の卵重
35週齢時: 38.3g (H27年鶏: 岡崎牧場系)

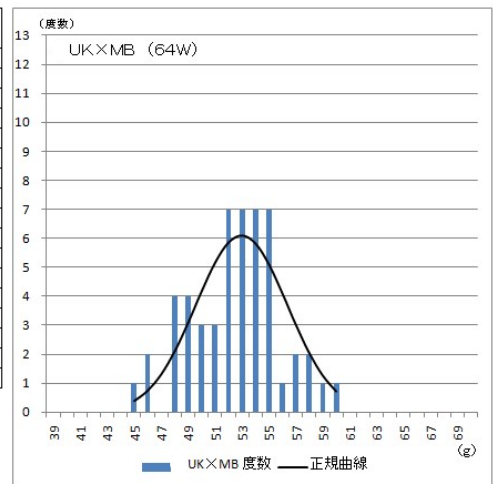
(表 10・図 7) 卵重の状況

これら全ての測定値からそれぞれ度数分布、正規曲線を求めた結果、表 11~12、図 8~9 のような分布となった。

卵重 (g)	度数
43	2
44	5
45	1
46	4
47	6
48	2
49	11
50	5
51	6
52	7
53	3
54	5
55	2
56	1
	60



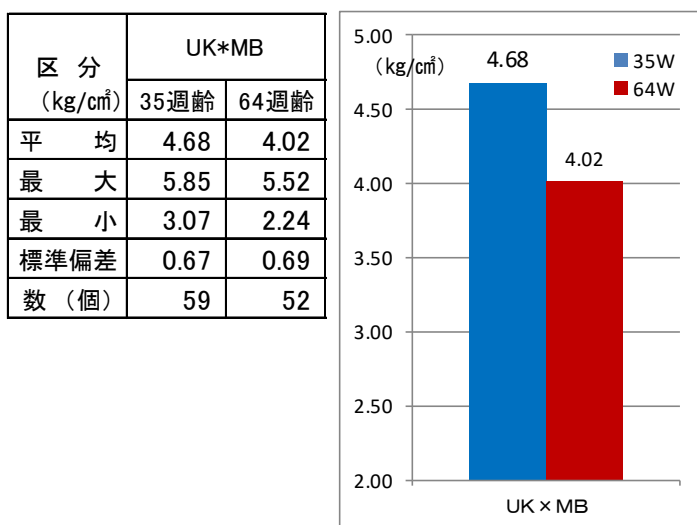
卵重 (g)	度数
45	1
46	2
47	0
48	4
49	4
50	3
51	3
52	7
53	7
54	7
55	7
56	1
57	2
58	2
59	1
60	1
	52



(表 11・12、図 8・9) 卵重の度数分布・正規曲線

イ 卵殻強度（表 13～15、図 10～12 参照）

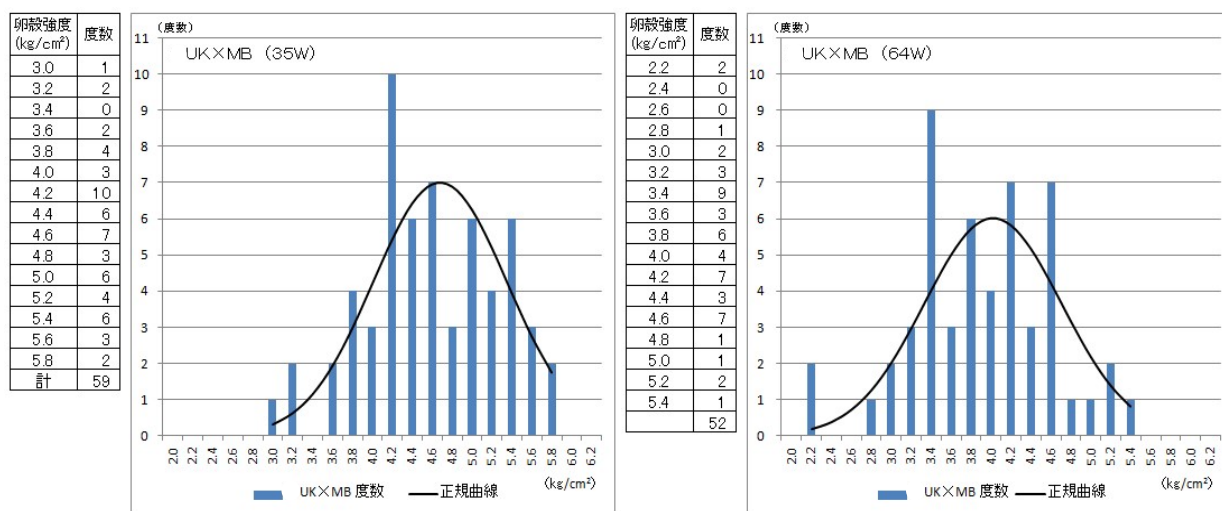
卵殻強度は、35 週齢では 4.68 kg/cm²、検定終了時の 64 週齢で 4.02 kg/cm²となった。



(参考) 烏骨鶏純粋種の卵殻強度
35週齢時: 3.86kg/cm²(H27年鶏: 岡崎牧場系)

(表 13・図 10) 卵殻強度の状況

これら全ての測定値からそれぞれ度数分布、正規曲線を求めた結果、表 14～15、図 11～12 のような分布となった。



(表 14・15、図 11・12) の卵殻強度の度数分布・正規曲線

ウ 卵殻色（表 16、図 13～14 参照）

a 卵殻色「L 値」（※ 明るい + ← 0）

色の明るさを示す L 値（数値が低いほど卵殻色が濃い）については、♀系の白色レグホーンの影響を受け、卵殻色が薄く明るい数値となり、35 週齢及び 64 週齢の何れにおいても 82 程度であった。

b 卵殻色「a 値」（※ 赤 + ← 0 → - 緑）

色の赤・緑を示す a 値（プラス数値が高いほど赤みが強く、マイナス数値が高いほど緑みが強い）は、父系の烏骨鶏（特徴：淡褐色卵）の影響を受け、赤色を示すプラス数値となり、♀系の白色レグホーンの影響により褐色は薄く 3～3.8 程度であった。また、加齢とともに赤みが薄くなる傾向であった。

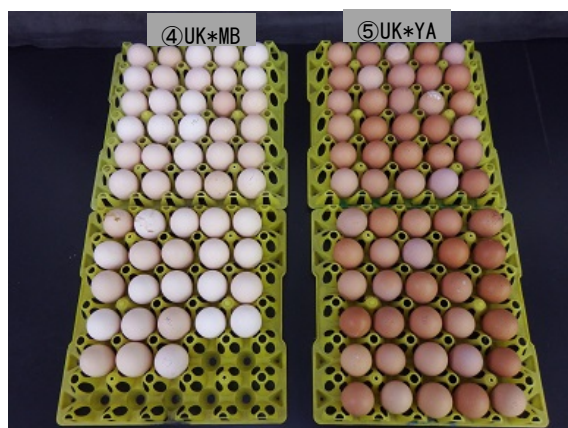
c 卵殻色「b 値」 (※ 黄 + ← 0 → - 青)

色の黄・青を示す b 値 (プラス数値が高いほど黄みが強く、マイナス数値が高いほど青みが強い) は、父系の烏骨鶏 (特徴: 淡褐色卵) の影響を受け、何れの組合せも黄色を示すプラス数値となり、♀系の白色レグホーンの影響により黄みは薄く 14~14.5 程度であった。また、加齢とともに黄みが薄くなる傾向であった。

(表 16) 卵殻色「L 値、a 値、b 値」の状況

区 分	卵殻色(L値)		卵殻色(a値)		卵殻色(b値)	
	35週齢	64週齢	35週齢	64週齢	35週齢	64週齢
平 均	82.9	82.2	3.75	3.05	14.53	14.00
最 大	88.4	89.4	10.43	10.97	22.28	25.44
最 小	73.3	70.2	0.65	0.19	6.89	6.51
標準偏差	2.8	3.6	1.68	2.03	3.09	4.38
数 (個)	60	53	60	53	60	53

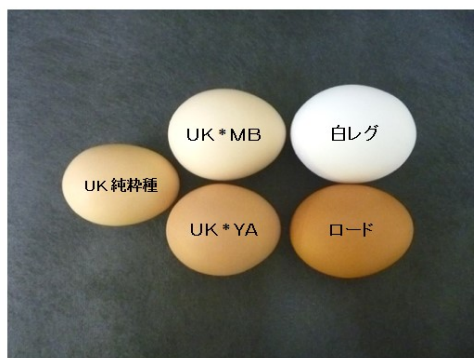
<参考> 卵殻色の違い (64週齢時)



(図 13) 烏骨鶏交雑の卵殻色の状況

<参考> 卵の特徴 (55週齢時)

< 烏骨鶏交雑 >



UK純粋種 (43.8g)	④ UK * MB (54.0g)	白レグ(MB) (62.5g)
	⑤ UK * YA (50.6g)	ロード(YA) (58.3g)

(図 14) 烏骨鶏交雑の卵の特徴